

令和元年度大分県協働推進会議 議事録

日 時：令和元年10月18日（金）13：30～15：30

場 所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ（アイネス）大会議室

出席者：岩井清一委員、衛藤めぐみ委員、岡田正彦委員、伊達英寿委員、土谷晴美委員、

廣瀬舜一委員、村野淳子委員、山内弘美委員、渡邊由美子委員

公益財団法人おおいた共創基金 岡正美事務局長

島谷典久社会貢献推進一課長、和田慎一郎社会貢献推進二課長

（事務局）

生活環境部長宮迫敏郎、県民生活・男女共同参画課長石松久典

県民活動支援室 室長田崎真佐恵、主幹高柳陽子、主事茶園舞、主事相澤康裕

1 開会

2 議題

(1) 多様な主体との協働について

平成28年度地域を担うNPO協働モデル創出事業に採択されたNPO法人空き家サポートおおいた事務局長松尾修二氏から「甦れ！AKIYA 空き家所有者の意識改革と空き家活用推進！」について事例発表を行った。

（主な意見）

- ・空き家サポートおおいた自体がいろいろな専門家のネットワークでつながっているところが興味深い。また、空き家問題から空き店舗や町づくりまで話がつながっていく取組が他のNPOのモデルとなるのではないか。

(2) 議 事

平成30年度大分県NPO団体等の活動支援に関する調査について説明した。

（主な意見）

- ・アンケートの回収率が低い。回収率を上げる工夫、NPOとの関係性の再構築も必要ではないか。
- ・職業の選択の1つに、NPOという形があってもいいのではないか。活動

資金の確保、人材の雇用や人材育成ができるようなNPOもつくっていく必要があるのではないか。

- ・若い世代からNPO活動を理解してもらうために、学校教育の中で取り組んでもいいのではないか。

- ・これまで課題となっている部分は、ずっと変わっていない。これに対してどういう取組をやってきて、何が成果につながったのか。逆に何が失敗になったのかを確認したうえで、課題に対する解決策を取るべきではないか。

- ・活動をしてるNPOは日々の活動で精一杯であることから、中間支援がいろんな所とつないであげるなどきめ細かな支援をやっていかないと、NPOが育っていかないのではないか。

- ・その活動が本当に社会にとって不可欠なものであるか、というところの見極めが必要ではないか。NPO活動の価値をより明確にして、社会的な支持を作っていくということも考えないといけない。

- ・行政とNPOの協働だけではなくて、NPOと地域がいかに協働していくかという考えも必要では。

- ・NPOはどんなものがあるか分からない。もっとPRしてはどうか。

(3) 報告事項

ふるさと創生NPO活動応援事業について説明した。